

職朝での校長挨拶 14

おはようございます。今日も「向き合う」シリーズです。

我々はすでに世界の中で生きている、だから世界を対象にすることは原理的に出来ない。つまり「対象に向き合う」ことは原理的に不可能である、今回はこのようなことを申しました。今日はその続きです。

人間は世界を理解し、自分の世界観の中に閉じこもります。つまり人間は本性上「対象と向き合う」ことが出来ません。つまり人間は原理的にも、本性的にも「対象と向き合う」ことはできません。

しかしそれだからこそそうした「世界観」が破れるということが起こりうる。どこまでも分からない世界が開けるとということが起こりうる。それは狭い自己という点から見れば、自分を越えた何かに照らされるという経験です。この瞬間が「対象と向き合う」時です。またこの経験によって学び続ける姿、つまり「対象に向き合う姿」が可能になるのだと思います。

逆説的ですが、人間は自分の力では「対象に向き合う」ことはできません。しかしそれだからこそ何かに照らされて「対象と向き合う」ことができる。つまり「対象に向き合えないが故に、対象に向き合うことが出来る」こうした逆説的なことが「向き合う」ということを考える場合に大切だと思います。

今日はここまでです。本日もよろしくお願いいたします。